

NPO法人 高蔵寺ニュータウン再生市民会議発行

12月どんぐりsカフェ

地域を置き去りにした藤山台小学校建設

現在、新藤山台小学校の建設が進んでいる。「地域とともに歩む夢のある学校づくり」という提言書は活かされているのか、12月21日、「地域と学校の関係、ニュータウンのこれからと藤山台小学校」というテーマで、名市大大学院鈴木教授の講演会が開かれた。



先生が関わった豊田市第2浄水小学校の「地域協働型学校づくり」のスライドが中心。驚くのは地域住民22名を加えた「おいでん会」が組織され、その提案を基に自治区長や学校担当者による委員会によって決定されるという仕組みである。

一方、藤山台小学校の場合は市教育委員会から任命された「懇談

どんぐりsから

国内・国外ともに状況が混沌としていて、明るい見通しが持てない年明けですが、この一年が良い年であるように希って『謹賀新年』。

去年の夏に土地総合研究所から「大都市郊外はどうなる、どうする」というテーマで千里、多摩と共に高蔵寺ニュータウンについてもレポートを求められ、悪戦苦闘して原稿を書いたものが、昨年末、出来上がったと届けられました。

見るとニュータウン関係だけでなく諸先生方が色々書いておられて、中には日本全体の人口が減少するのだから、衰退する住宅地は計画的撤退も視野に入れるべきであろうという論文もありましたが、多くは「どんぐりs」のマスタープラン構想「ねこ(Neo.Eco)ガーデンシティ構想」に重なる考え方、例えばアーバンビレッジ構想とか、小・中学校単位で自治的意志決定で主体的に連繋して福祉的サービスを考え、居住環境の維持・改善に取り組むやり方などの提案があり、参考になります(<http://www.lij.jp/>)
ニュータウンの報告では、やはり高蔵寺が最も遅れており、一層の努力が必要と感じました。会員各位の更なるご理解ご協力をお願いします。

理事長 曾田 忠宏

会委員」21人によって提案される仕組みとなっている。委員21名の内、いわゆる地域関係者は町内会、自治会長の3名のみ。その他の18名はなんらか、周辺の保育園、幼稚園、小学校などの教育関係者で占められている。豊田市の構成メンバーや決定組織との差の大きさに愕然とする。藤山台小学校は既存2校の跡地の活用問題もあり、多方面の検討が同時進行的に必要と思われる中で、市教育委員会が主導する上記のような委員だけで審議するというプロセスそのものに問題がある、と思わずにはいられない。

ニュータウンは今後、このような学校の統廃合に伴う問題が発生することが考えられる。そのような時、今回の愚かな藤山台小学校の事例が前例になるようなことだけは何としても阻止したい。「地域とともに歩む」という提言はどこへ行ったのか。

1月どんぐりsカフェご案内

テーマ：いざというとき役立つ「相続と遺言」の話

講師：猪瀬俊雄弁護士

日時：1月18日(土) 13.30-16.00

会場：東部ほっとステーション

資料代：500円、当日受付。

「市民の会」 パワーアップパーティ開催

「高森台県有地の活用を提案する市民の会」(略称；市民の会)は、この1年間、県有地活



入鹿池の朝霧

森 健

私の朝・昼・晩

新仏の正月“巳午”

岩成台 岡本秀昭

亡くなった人のための正月がある。それが巳午(みんま)だ。我が故郷愛媛を中心に四国地方で見られる珍しい法要だ。別名、巳正月(みしょうがつ)とも言う。そのいわれは諸説あるが、秀吉の朝鮮出兵にまつわる説が有力。それによると「戦死した兵士を弔うため餅を搗き、それを戦地の朝鮮に向けて供え、後で竹の先に刺して炙って食べた」と。この説が現在の巳午行事の起源となっている。親戚の年寄りに聞くと「昔は藁を燃やしナイフや竹の先に餅を刺し炙って食べた」と。これを参考に我が家では昨年他界した母の法要を実施。その際、墓に参り搗き立ての餅をナイフで切りライターで儀礼的ではあるが炙って食べた。親戚が持参した香典袋は“御仏前”ではなく“御年玉”と書かれ、水引も黄色と独特だ。これらを見る限り正月そのものだ。

因みに巳午は亡くなった年の12月の巳の日に墓へ詣で餅を食べるのが慣例。これには新仏の正月を祝いたいという想いと同時に、その年の厄災を全て振り払い新しい年を迎えたいという願いが込められているようだ。

用イメージを形にし、理解と支援を求めるキャンペーンを中心に活動を展開してきましたが、今期は、その実現を目指す活動を重点目標として掲げ、新たな一歩に踏み出すことになりました。その決起集会ともいべきパワーアップパーティが昨年12月14日夕方、ポーノで開催されました。冒頭、寺島代表より、県有地の夢を実現させるためにも春日井市に対して市民参加条例を策定させることを今年度の活動目標として掲げたいとの提案がありました。参加者から力強いエールの意見が寄せられ、また、今後の進め方をめぐって、和気あいあいとした中にも活発な意見交換がありました。印象的だったのは、皆であれこれ考えていくプロセスが大事であるとの指摘が寄せられたこと、また、具体的な行動として、県有地の清掃、花植え運動を展開してはどうかといった提案あり、これからの活動への弾みをつける有意義な会となりました。



子どもたちからみた“まちづくり”

“まちづくり”では、とかく高齢者に目が向きがちですが、子どもたちは、このニュータウンをどのように見ているのでしょうか？

この夏、高森台中学校では、社会科教諭松下先生を中心に「高蔵寺ニュータウンの新しい街づくり」をテーマにした社会科授業研究(7回シリーズ)が行われました。どんぐりsにも講師依頼があり、まちづくりの実践について話をしてきました。シリーズ終了後に届けられた生徒たちの感想文には、子どもたちのニュータウンに対する不満やまちづくりへの期待などが綴られ、胸を打たれました。改めて、子どもたちも参加した“住民の、住民による、住民のためのまちづくり”を目指さなければ、と痛感した次第です。この授業内容は、2月のどんぐりsカフェで松下先生にお話いただく予定です。乞うご期待！